# 1 委員会における検討状況について

【目　的】

令和５年３月に策定した「福井空港の将来像と今後の取り組み方針について」（以下「将来像」という。）において、58年が経過する現空港ビルの老朽化が著しく建替等が必要であるとしており、本委員会において主に以下の観点から、空港ビルの再整備に向けた具体的な構想（案）をまとめていくことを目的とする。

観光やビジネスを
中心とした空港利活用の促進

防災拠点としての機能強化を
含めた空港ビルの再整備

# 2 委員会における検討状況について

## 【スケジュール】

### 1　将来像における空港ビル再整備スケジュール

| | 短期【挑戦期】 | | 中期【実践期】 | | | 長期【飛躍期】 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | R5<br>2023 | R６<br>2023 | R７<br>2025 | ～ | R11<br>2029 | R12<br>2029 | ～ |
| ○空港ビルの再整備<br>○防災拠点としての機能強化 | **空港ビル再整備構想とりまとめ**<br>**本委員会** | | **空港ビル再整備**<br>調査基本設計 ▶ 詳細設計 ▶ 新ビル建設工事 ▶ 現ビル取壊工事等 | | | **空港機能の拡充**<br>新ビル再配置により駐機スポット数等の確保 | |

### 2　委員会スケジュール（令和６年度）

| 6月23日(日) | 7月8日(月) | 9月11日(水) | 10月22日(火) | １月 |
|---|---|---|---|---|
| キックオフ講演会 | 第１回検討委員会 | 第２回検討委員会 | 第３回検討委員会 | 第４回検討委員会 |
| ◆福井空港現場見学会<br>◆さまざまな空港の好事例から学ぶ福井空港 | ◆現状（日常・防災）と将来像の共有<br>◆課題について | | | |

地元住民の皆様への説明や意見を伺う場

# 3 委員会における検討状況について
## （敷地内の施設レイアウト検討にあたっての課題および検討方針）

| | 課題 | 検討方針 |
|---|---|---|
| ① | 現空港ビル老朽化。築58年経過 | 空港運用を止めずに、新規ビルを整備 |
| ② | エプロンが狭いため、駐機スポットの数が十分でない。<br>また、ヘリの駐機スポットとしてはややサイズが小さい。 | エプロンおよび駐機スポットを拡充<br>（福井豪雨や能登半島地震での実績を元に検討）<br>（スポットサイズの現状：14m×12m ）<br>（20m×20mのスポット枠もエプロンに描く） |
| ③ | 防災ヘリの事務所と格納庫が離れている。<br>また、防災ヘリと県警ヘリ・ドクターヘリの事務所相互も離れている。 | 防災関係の格納庫、駐機場を一定のエリアに集める |
| ④ | 小型固定翼機がヘリと混在しているため、離発着するヘリの風で悪影響を受けてしまう。 | 小型機とヘリは駐機エリアをできるだけ分ける。（平常時）<br>・小型機：南側<br>・ヘリ：北側 |
| ⑤ | ①,②,③の課題に対応するためには、現駐車場エリアの縮小が必要となる。 | 必要台数を確保する。<br>通常最大60台程度（空港関係者：管理者＋入居者）<br>【参考】現状の駐車可能台数は１４６台 |
| ⑥ | 県民の利用が少なく、親しまれていない。 | 別途実施するワークショップでの議論を、委員会でさらに深める<br>（その他、県民向けイベントは引き続き開催） |

# 4 委員会における検討状況について

## ○第２回委員会での主な意見【抜粋】

・全国の空港を見ながら新しいコンセプト取り入れられるとよい。
・福井空港の特徴をいかに活かせるか、全国にないような機能を持たせるかが重要

・福井空港の特徴はグライダーのメッカであること。
地域の子供たちのあこがれとなってきた。
空を愛する子供たちを福井空港が育ててきたのは事実であり、
これからも次の世代を作る役割を担ってほしい。

・福井空港は商業地が付近にあり、店舗がテナントとしてビルに入る方法だけでなく、
周辺の店舗から持ち込んでもらう形などで来ていただくといった方法もある。
・新しいものをつくるとわくわくして、あれもほしいこれもほしいとなりがち。
何でもかんでも入れるのが良いのかという観点をもって、
身の丈に合ったものを整備すべき。

・現在の福井空港は、ビルの市街地側の部分が周辺のランドスケープからみて、
来ていただきやすい環境となっていない。
・周辺との関係からのアクセスも含めた動線の検討をされるとよい。
・地元、周辺地域に関心を持ってもらえるように、引き続きワークショップで検討進めてほしい。